

■プロジェクトの目的

野球の試合で審判が最初に発する「プレイボール!」。この言葉には、グラウンドに立つメンバー全員が、スポーツマンシップに則り、野球のゲームを楽しもう!という思いが込められています。野球は、「打つこと」、「走ること」、「ホームに帰ってきて得点すること」、「打者に対して思いっきり投げること」など多様な魅力がある競技です。しかしながら、日常の遊びであった「子どもたちの野球」は、時代や環境の変化とともに、成果を求める「大人たちの野球」に変わり、子どもたち自身が野球本来の楽しさを感じる機会が減少しているように思われます。

そこで、東京六大学野球連盟に所属し、日本そして世界の野球界に多くの人材を輩出してきた早稲田大学野球部は、この度、若手有志 OB 組織によって「プレイボール プロジェクト」を発足させました。

プロジェクトの目的は、野球のもつ価値や効果を引き出し、野球文化および社会の発展に貢献することです。「本来の楽しい野球を子どもたちに返す」ことができるか。「プレイボール プロジェクト」では、現在の野球が抱える課題に向き合い、その課題解決方法を模索しながら、世の中にアイデアや情報を発信していきたいと考えています。

■「プレイボール プロジェクト」が考える日本野球界の課題

日本の野球界の主な課題を次の3つとして捉え、それに対するアクションプランの実施を予定しています。

1. 野球競技人口の減少化
⇒『少子化の 10 倍の速度で減少中』
2. 勝利至上主義に偏りがちな指導
⇒『四球選び、サイン盗みの横行』
3. 知識不足による発育期のケガ増加
⇒『球数制限は大会の時だけ』

■それぞれの課題に対する「プレイボール プロジェクト」のアクションプラン

【1. 野球競技人口の減少化】に対して

少年野球人口の減少が叫ばれて久しく、その傾向は今も拡大の一途です。中学軟式野球人口では、平成 21 年から平成 27 年の 6 年間で 10 万人(全体の 34%)が減少し、同期間の少子化傾向の約 10 倍の勢いで野球人口は減少しています。「プレイボール プロジェクト」では、野球界の各所と連携を行い、子どもたちに野球をするきっかけ作りと楽しさを体感してもらう施策を進めていく予定です。

1. “始めよう” 「ならびっこベースボール」の実施

まだ本格的に野球をやっていない子どもたちを対象に、野球の楽しさに触れられる接点を作ります。筑波大学川村先生が推進する「ならびっこベースボール」にて「野球遊び」を行い、その後キャッチボールなどに移行していきます。野球競技を知らない子どもたちや野球初心者、その保護者への導入プランとして実施をしていきます。

2. “始めよう” プロ野球選手等によるデモンストレーション

野球少年・少女やまだ本格的な野球を見たことない子どもたちや保護者に対して、現役プロ野球選手や社会人野球選手がデモンストレーションを行なうことで、野球のスピード、技などの凄さを体感してもらい、野球競技への憧れを醸成するきっかけづくりを行います。

3. “始めよう” 野球未経験者への野球用具の贈呈

また、野球をまだやっていない子どもたちに対して、野球用具などを贈与し、日常的に野球遊びができる環境づくりに貢献していきます。

【2. 勝利至上主義に偏りがちな指導】に対して

近年、子どもたちに野球の「楽しさ」を体感させる指導者よりも、「勝利」を優先する指導者が多いように感じます。勝利を目指すことはスポーツをする上で重要なことではありますが、目標であり目的ではありません。発育期の少年野球において勝利至上主義を推奨する事は、打つことよりも四球を選ぶこと、相手を動揺させるヤジやサイン盗みを許容することなど、彼らに野球本来の楽しさが伝わらず、結果として野球離れを加速させることとなります。また、スポーツをする者がとるべき行動と態度(スポーツマンシップ)や試合中に守るべき考え方や態度(フェアプレイ)といった健全な精神も学ぶことができません。

1. “楽しもう” 「ワセダゲーム競技会」の実施

野球は、プレイボールの言葉が示すように、日常の「遊び」の中で楽しさを体感し、健全な精神を育成することができる競技です。今回は、「ワセダゲーム競技会」という、野球のもつ価値や効果を伝えるための特別なルールを設定します。また、それぞれのチームにプロ野球選手、社会人野球選手が参加して子どもたちと直に接し、彼らが野球本来の楽しさを探していくアシストを行なっていきます。

<ワセダゲーム競技会 特別ルール(例)>

- ・四球、盗塁、バント、パスボールなし
⇒打つことに集中してもらい、ピッチャーとバッターが対戦する楽しさを学んでもらいます。
- ・全員打席、守備位置順次移動
⇒全員が試合に出場し、様々なポジションにチャレンジする楽しさを感じてもらいます。
- ・投手は最大 2 イニング交代
⇒肩肘負担軽減、投手発掘と育成を行います。
- ・審判やスタッフは模範的行動や態度にグリーンカード提示
⇒スポーツマンシップを醸成していきます。
- ・際どい判定は参加者皆で決定(遊びと同じセルフジャッジ)
⇒フェアプレイ精神を醸成していきます。
- ・塁打王、打率王、グリーンカード賞ほかを表彰
⇒野球の魅力である多様な能力の重要性を感じてもらいます。

【3. 知識不足による発育期のケガ増加】に対して

1. “学ぼう” 「肩肘故障予防講習会」の実施

勝つことを最優先することで一部の選手が投球過多となり、肘や肩の故障を誘発する現象は近年増加しているように感じられます。球数制限は大会開催時のみに行なうだけで、練習(試合)ではそういった制限をかけずに指導をおこなうケースも見受けられます。野球界の財産である子どもたちの身体を守るため、指導者や保護者が最低限の医学的知識を持つ必要があります。早稲田大学野球部OBでプロ野球ソフトバンク和田毅選手の専属トレーナーである土橋恵秀氏から、発育期の肩肘故障予防に関する講習会を開催します。

<早稲田大学野球部若手有志 OB が野球界の課題に向き合う理由>

早稲田大学野球部草創期の部長であった安部磯雄先生は、『知識は学問から、人格はスポーツから』という考えのもと、日本の社会に多くの人材を送り出し、社会や球界の発展に貢献してきました。時代が変わった今も、我々OBは安部先生の考えに基づき、先人たちが築いてきた野球文化の更なる発展や次世代の育成に、「進取の精神」をもって取り組んでいくことをめざしていきます。

それでは、「プレイボール！」